

# 2020年度寡占理論 (1)

## Introduction

### 今日の講義の内容

- (a) 講義形式
- (b) 予想されるトラブル対応
- (c) 講義資料の入手先
- (d) この講義の目的
- (e) この講義に参加するための前提条件
- (f) 成績評価の方法
- (g) 講義予定

# 講義形式

授業は第1回から最終回までZoomを使った遠隔講義になる可能性も、途中から教室での対面講義になる可能性もどちらもあります。受講生を速やかに把握するために、講義に参加希望の学生は松村 ([matsumur@iss.u-tokyo.ac.jp](mailto:matsumur@iss.u-tokyo.ac.jp))まで速やかにメールで連絡して下さい。

Zoomを使った遠隔講義では、報告者、参加者とも(とりわけ私自身が)Zoomに不慣れで、トラブルが頻発すること予想されます。その際にもメールで事前・事後対応が必要になるので、必ず事前にメールで連絡して下さい。

# 4 月中の授業の対応

4 月中はZoomによる遠隔授業を行います(5 月以降もそうなる可能性があります)。第 1 回はこの資料の説明だけです。トラブル等で聞きそびれても問題ありません。質問があればメールで問い合わせして下さい。

第 2 回から論文のプレゼンです。トラブル等で当初参加出来ないことを想定して、第 2 回、第 3 回は環境経済学、混合寡占の論文をそれぞれ私が報告します。それぞれの研究分野の背景は、第 4 回(5 月 7 日)以降、混合寡占、環境経済の論文の報告時に背景を再度、それぞれの回の冒頭に話すので、第 2、3 回を聞きそびれても、その後の講義の参加に障害ありません。しかし事前の連絡なく第 4 回から参加しても原則として単位は認められません。

# Zoomによる遠隔授業時の対応

トラブルが起こることが予想されるので、当面は通常のメールも確認しながら授業します。トラブル、意見があればZoomのチャット機能を使うのが基本ですが、これが使えなくても、メールしてくれれば対応できます。仮に授業中にメールを見落としても、授業後対応します。

登録名は出席状況等の確認のためにも必ず事前に松村までメールで知らせた本名(ないし本名の一部)にしてください。異なる受講生と誤認されるリスクは受講生が負うこととなります。誰かわかるような登録名にしてください。差し障りがある場合には事前にメールで登録名を松村まで知らせてください。

# Zoomによるトラブル

信じがたいことに当研究所では研究室のデスクトップパソコンも、社研の基幹ネットワークも、Zoomを使えません。したがって、カメラもマイクも貧弱なノートパソコンをWifiで繋いで対応することになります。実際に自分で話し、別のノートパソコンで自分で学生役として繋いで予行演習したところ、カメラは暗くて顔がつぶれ、ノートパソコンの固定カメラの位置が悪く顔がよく写らず、音はハウリングして聞き取りにくく、2台のパソコンをUTokyo Wifiに繋いだら速度不足で失敗して接続できず、別々のWifiを使ってようやく繋ぎました。それでも「ネットワークが不安定」の表示がしばしば出て、画像や音声が遅延し、かつかなり乱れました。

# Zoomによるトラブル

必然的に声が聞き取りにくく、途中で不快な雑音、ハウリングなどが起こり、画像も暗くかつ乱れた、フラストレーションがたまる授業になると思いますが、お許し下さい。

メールを多用して、授業後のフォローアップで対応するつもりですので、必要があればいつでもメールして下さい。

授業の改善点のコメントも歓迎しますが、既に説明した理由で画像や音質の改善の余地は大きくないことご理解下さい。

# 第1回の授業

第1回の授業は、この資料に書いてあることを説明し、質問を受け付け、今後の報告希望を募るだけですので、この講義資料を読み、

事前に松村([matsumur@iss.u-tokyo.ac.jp](mailto:matsumur@iss.u-tokyo.ac.jp))までメールして授業参加の意志を示し、松村からのメールでの質問に回答し、参加を許可された場合には、第1回の授業に参加する必要はありません。欠席しても、出席したと見なします。むしろ事前にきちんと調べて指示通りに行動した者として、出席者以上に高く評価します。

資料を読む際には12-14スライドを注意して読み、自分が参加要件を満たしていることを確認して下さい。

# 報告論文・講義資料

報告論文・講義資料は以下のaddressで公開しています。

<https://www.iss.u-tokyo.ac.jp/~matsumur/OT2020.html>

私のHPにアクセスしリンクをたどると到達できますので、このアドレスを覚える必要はありません。ファイルは講義が行われる2日前(水曜の授業であればその週の月曜日)の13時までにファイルを上記のHPからダウンロードできるようにしておきます。

参加者は事前に**論文**を読んだ上で参加することが求められます。ただし、上記の期限までにダウンロードできるようになっていなかった場合には、読まないで参加することも認められます。報告者は報告週の前週金曜日18時までに松村まで論文ファイルを送って下さい。



# 講義資料

報告論文と講義資料（プレゼンのスライドのファイル）の両方がダウンロードできるようになっている場合、**報告論文を必ず読んで講義に臨んで下さい。**講義資料を事前に読む必要はありません。

講義資料のみがダウンロードできるようになっている場合には、講義資料を読んで講義に臨んで下さい。

報告論文が複数ダウンロードできるようになっている場合にも、事前に読むことを要求されるのはそのうちの1篇のみで、残りは余力のあるときのみ軽く目を通して下さい。読む論文はHPで指定しますが、指定のない場合には、受講生がどちらを読むのか選択して下さい。

# この講義の目的(1)

産業組織、公共経済学、環境経済学、法と経済学、Regional Science などの応用ミクロ経済学の分野で、理論的な学術論文（修士論文、博士論文、**その他の学術論文で、国際的な査読誌での刊行を目指す論文**）を書くのに際して、なにがしかのアイデアを得る。

M1の学生はミクロ・マクロのコースワークで大変で、この講義に参加する余裕はないと思います。更に、この講義に出るためにコースワークの学習がおろそかになるのはこの授業の目的に合致しません。**コアコースを一部でも履修済みの本学学部卒業生の参加は歓迎しますが、それ以外のM1学生の参加は想定していません。**

# この講義の目的(2)

ゲーム理論・ミクロ経済学などのより理論的な論文を書く際の例となる素材の収集や、実証研究の素材などを見つける。

注意：より現実に近い日本経済・産業・政策・規制等の例を学びたいのであれば、この講義ではなく、来年度公共政策大学院で開講される「規制政策」を受講して下さい。

# この講義に参加するための前提条件

以下の3つの条件を一つも満たさない者の参加は(単位を取得しない聴講生でも)**原則として認めません。**

- (1) 私が参加することを要請した学生(具体的には私が指導教員となっている修士課程2年時あるいはそれ以降の学生)
- (2) 博士課程の学生 (OB、OGを含む)
- (3) 修士課程在学中で、博士課程への進学意志を持つ者

もし(1)-(3)の要件を満たさないが講義に参加したい者は、出来るだけ早く、遅くとも4/14までに松村にメールで連絡の上、許可を取って下さい。

# 参加のための前提条件(3)に関して(M2)

修士2年で(1)の要件を満たさない者の中で、**経済学研究科**のミクロ、マクロのコアコースの両方(計4科目)を全て受講した者のみを、博士課程への進学意志のある者と見なします。**1科目でも公共政策大学院の科目で代替した者は、(3)の要件を満たしていません。**

また4科目中少なくとも一科目でA以上をとっていることも必要です(そうでない学生はこの授業をとるのではなく、コースワークの再履修に注力してください)。

# 参加のための前提条件(3)に関して(M1)

修士1年の学生の参加は、既にコアコースの単位を一部でも取得している者を除いて想定していません。それ以外の者は、今学期登録可能な**経済学研究科**のミクロ、マクロのコアコースの両方を受講している者のみを博士課程への進学意志のある者と**見なす可能性が**あります。1科目でも公共政策大学院のミクロ、マクロ経済学を登録している者は(3)の要件を満たしませんが、公共政策大学院の科目を登録していないからといって(3)の要件を満たすわけではないので、**必ず事前にメールで相談して下さい。**

# 成績評価(1)

- 講義への参加(平常点)で成績をつけます。
- 原則としてC（可）の成績はつけません。可しかつけられないパフォーマンスであった場合、不可(不合格)の成績をつけます。
- 博士課程の学生は少なくとも1回は報告しないと単位を取得できません。報告は自分の論文が望ましいのですが、自分の研究に関連した、既に公刊された他人の論文についての報告であっても構いません。

# 成績評価(2)

- ・ このクラスで何らかの貢献がない場合には、たとえ出席していてもその回の点数はゼロ点です。積極的な発言が求められます。授業中ではなく授業前後にコメントのメールを教員に送り、それが報告者にて役に立つ有益なコメントであると教員が確認した場合には、欠席した場合、授業中に発言がなかった場合でも点数が与えられることがあります。ただし同じ指摘が複数の受講生からあった場合、点数として評価されるのは最初の一人だけです。

第4回まではコメントは難しいと思います。コメントなくても否定的に評価はしません。慣れてきた第5回以降は積極的な発言・コメントを期待しています。



# Schedule (全体)

暫定的なスケジュールは

<https://www.iss.u-tokyo.ac.jp/~matsumur/OT2020.html>  
を見て下さい。

報告者が松村となっている箇所は、学生の報告希望者があれば差し替える予定です。報告者が松村となっている5月及びそれ以降の全ての報告予定が差し替わるのが理想です。学生の報告希望はメールで松村まで問い合わせして下さい。申し込みが遅れると、希望のスポットが既に埋まっていることにもなりかねませんので、早めをお願いします。同一学生が2度以上報告することも歓迎します。

# Schedule (4月)

第2回(4月15日)は既にEnergy Policyに公刊されている論文を扱います。既に公刊されているので、タイポ等の指摘ができないものですので、第2回も仮に発言なくてもマイナスに評価しません。トラブル等で接続に失敗する学生がいる可能性を考慮して、敢えて公刊論文の報告を選んでします。

第3回(4月22日)も同じ理由で混合寡占の公刊論文を扱う予定です。混合寡占の論文は複数回報告することになると思うので、仮にトラブルで接続に失敗する学生がいても、再度5月以降のどこかのスロットで混合寡占の解説するので、トラブルで聞き逃しても心配しないで下さい。

# Schedule（5月以降）

- 学生自身の報告希望優先します。できれば対面でやりたいとの考えであれば、遅めのスロット（6月後半とか7月とか）を早めに押さえることをお勧めします。しかし、最後まで遠隔講義が続く可能性がありますのでご承知置き下さい。
- 暫定的に書いてある私の報告の内、早めに話を聞きたい内容があれば、メールでリクエストして下さい。